

目 次

まえがき

序 章 日米同盟の「対称性」と「対等性」	I
1 役割をめぐる「対称性」と認識としての「対等性」	I
2 本書の特徴	3
3 日米同盟とは何か	4
第 1 章 日米安全保障条約	8
▶なぜ旧敵国から同盟関係に転じたのか	
1 占領初期の日米関係——被治者と統治者	8
2 冷戦の発生と米軍駐留をめぐる日米の思惑	14
3 日米同盟の成立	20
4 講和後初期の日米関係の「再設定」	28
第 2 章 中立化への不安と役割拡大への期待の狭間で	37
▶なぜ日米安全保障条約は改定されたのか	
1 アイゼンハワー政権の対日政策と鳩山政権	37
2 重光・ダレス会談とその後	43
3 岸政権の成立と安保改定への道	48
4 安保改定と60年安保闘争	52
第 3 章 高度経済成長下における同盟像の模索	66
▶なぜ沖縄返還は実現したのか	
1 池田・ケネディ政権と同盟関係の再調整	66
2 佐藤・ジョンソン政権と日米同盟	75
3 沖縄返還合意への道	80

第 4 章	デタント下の日米同盟協力の進展	96
	▶なぜガイドラインが作られたのか	
1	在日米軍再編と基地問題の変容	97
2	デタントと日米の相互不安	101
3	ベトナム戦争後の日米政策協調	107
4	日米安全保障協力の進展	113
第 5 章	「新冷戦」と「新デタント」期	121
	▶なぜ日米防衛協力が進展したのか	
1	西側の結束	121
2	実務レベルの緊密化	129
3	「ロン・ヤス」の時代	133
4	日米摩擦	139
第 6 章	同盟の「漂流」と「再定義」	148
	▶なぜ日米同盟は冷戦後も存続したのか	
1	冷戦終焉の影響	148
2	湾岸危機と湾岸戦争	154
3	「同盟漂流」	159
4	日米同盟「再定義」	166
5	東アジアの危機	169
第 7 章	テロとの戦い（9・11）の時代の日米同盟	176
	▶なぜ日米関係は最良とされた状態になったのか	
1	対テロリズムの時代の新たな日米同盟の胎動	176
2	新たな日米同盟の胎動	183
3	中国の台頭と日米同盟の曲がり角	187
4	「責任ある利害関係者」たる中国への関与	191

第 8 章	中国の台頭に向き合い始める日米両国の試み	200
	▶なぜ民主党政権下で日米同盟は揺らいだのか	
1	迷走を始める日米関係	200
2	変わる東アジアの安全保障環境	205
3	日米同盟の再強化	212
第 9 章	二重にグローバル化する日米同盟	221
	▶なぜ防衛協力の地理的範囲拡大と FOIP の主導に至ったのか	
1	防衛協力進展への準備と歴史認識をめぐる摩擦	222
2	防衛協力の進展と基地問題の膠着	226
3	米国第一主義下の防衛・経済協力と泥沼化する基地問題	232
4	「自由で開かれたインド太平洋」の主導	239
第10章	二重にグローバル化し続ける日米同盟	247
	▶なぜ同盟グローバル化が継続・進展したのか	
1	日米主導が続く「自由で開かれたインド太平洋」	247
2	進展する同盟グローバル化と膠着し続ける基地問題	249
	参考文献	261
	人名索引	273
	事項索引	277